



儒学者。昌平黌教授。宇摩郡川之江村（現四国中央市川之江町）出身。本名は孝肇。通称は良佐。大坂に出て苦学の末、私塾を開き朱子学の普及に尽くす。幕府の命令で昌平黌教授となり、約20年間にわたり、朱子学を再び盛んにすることに努力した。柴野栗山・岡田寒泉とともに寛政の三博士と呼ばれた。（後に、三博士は岡田寒泉に代わり古賀精里が入った。）

略歴

- | | |
|-------------------|--|
| 延享4(1747)年10月8日 | 宇摩郡川之江村に生まれる(延享2年とする説もある)。 |
| 宝暦元(1751)年 | 5歳の時、右足を負傷し、その後、足が不自由になる。 |
| 宝暦10(1760)年 | 川之江の宇田川楊軒に学ぶ。 |
| 明和7(1770)年 | 大坂の片山北海に学ぶ。 |
| 安永元(1772)年 | 大坂の上街に伊予屋良佐の名で塾を開く。 |
| 安永6(1777)年 | 『素餐録』を著す。 |
| 天明4(1784)年 | 『正学指掌』を刊行。 |
| 寛政3(1791)年 | 幕府に用いられて、昌平黌(昌平坂学問所)の教授となる。 |
| 文化8(1811)年 | 昌平黌を退任。 |
| 文化10(1813)年12月14日 | 永眠(没日は4日とする説もある)。墓所は、江戸の儒学者の墓地である東京都大塚の先儒墓地。 |

<関連図書>

- 田中歳雄『愛媛県の歴史』山川出版社 1973年
- 白木豊『尾藤二洲伝』尾藤二洲伝頒布会 1979年
- 影山昇『愛媛県の教育史』思文閣出版 1983年
- 愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- 杉田幸三『江戸学者おもしろ史話』毎日新聞社 1992年

(銅像:かわのえ高原ふるさと館)